



社会福祉法人  
ミッドナイトミッションのぞみ会  
「ホップ」



ホームページQRコード



QRコード

2025/8/1 No.99

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会

本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地

**仕える者として**

評議員 富津教会牧師 松平 聖晴



評議員として私は今年で3年目になります。初めて評議員をお引き受けした時は、私に何ができるだろうか、お役に立て

るだろうかという思いと、それでも自分ができることをさせていただけようという思いがありました。評議員会に参加しても、最初のうちはただ話を聞けばかりの者ではありませんが、評議員として関わらせていただくことで、望みの門の誠実なお働きをより深く知ることとなり、施設の皆様のお働きに大変感謝を感じております。また、陰ながら皆様のために祈らせていただいております。

さて、毎年6月には評議員会が行われるのですが、その際に評議員として私心がけていることは、理念に沿って神の愛が現され、その中で皆が関わり合うことができているかというものです。望みの門の理念の中に「福祉サービスを求める人々の人格と権利を尊重し、キリストの教えにしたがい最適な福祉サービスを提供を約束します」という言葉があります。人々の人格と権利を尊重するということは寄り添うということでもあり、寄り

添うとはこちら側がへりくだるといってもあります。つまり、こちらのやり方に合わせてもらうのではなく、相手の必要のために仕えていくことで、最適な福祉サービスの提供をしていくという尊い働きです。この福祉サービスをやっていくことは、なかなか大変な部分もあるかと思いますが、それ以上の喜びの結果が備えられているのではないのでしょうか。実際に、望みの門の働きには様々な働きがあります。福祉サービスを求める人々がいて、それらの人々に手を差し伸べて続けてきたからこそ、その働きは大きく広がって行きましたし、より多くの人々に必要な福祉が提供されてきたといえるでしょう。

そして評議員会では毎回思うところですが、望みの門の皆様は本当に良くこの理念に沿った働きをしておられるということだと思います。どうすればより良いサービスを提供できるか。何が最適であるのか。そういったことが施設利用者に対してはもちろんのこと、職員の皆様に対してもそのような心配りがあることを各報告の中でも伺い知ることができます。そして、このような望みの門であるからこそ、神様と地域に必要とされている施設であり続け、なくてはならない大切な働きがここにあると感じるのです。望みの門の皆様に対して、丁寧なお働きに感謝申し上げます。評議員の一人として責任を持ち、望みの門

の理念を大切にし、そして理解しつつ、私自身も皆様に仕える者でありたいのです。祈り、また寄り添いつつ、伝えさせていただきませう。そして、共にキリストの愛を現していくことができれば感謝です。望みの門がこれからも、主に喜ばれる働きとなりますように。

東京望みの門 自立援助ホーム マナの家

食べることは生きること

調理員 矢嶋 万紀子

私は3年ほど前から、マナの家で食事作りを担当しています。

「食べることは生きること」食事作りは私にとって元気の源です。おいしいものを作って食べていると、元気になれる気がします。私は大阪生まれ大阪育ちです。幼い頃、よく母に連れられお魚、お肉、野菜など、近所のスーパーではなく、新鮮な旬の物を求めて、少し遠くの市場に買い物に行っていました。母は料理を作るのが好きで、よく市場のお店の人達に、どんな風にしたら美味しく食べられるかを聞いて教わっていました。私も母に似て、料理を作ることが好きです。「美味しい」と思える瞬間があると、幸せな気持ちになっ

て心が満たされます。料理を作るためには献立を考える必要があ



ります。母がしていたように、新鮮な旬の物ができるだけ手に入れて、料理したいと思っています。また、季節や気温を考慮し、寮生の好き嫌いを聞いて、それらを参考にこんなものは食べるかな？、新しい味付けを試してみようかな？と、スーパーのチラシとにらめっこしたり、料理の本を広げて色々アイデアを探したりしています。あまりに悩んでなかなか決まらない時は、職員の方々に相談します。寮生の好みを把握しているので、とても参考になります。

私が食事を作っている時、寮生と話をすることがあります。「今日は何を作ってるんですか？」と聞かれたり、私が作った料理の感想を聞いたたりすることもあります。「美味しかったです。」と言ってもらえると、ほっとします。「美味しかった」と思えることができたら、一生懸命献立を考えてよかった、と私もうれしくなります。

女性自立支援施設 望みの門学園

感謝



栄養士 安藤 美和子

令和7年6月2日私は、栄養士で望みの門に勤めさせていただいてから15年間勤務をしてきたということで望みの門から表彰をいただきました。望みの門の中では20年や25年といった長く働いてきている先輩たちがたくさんいらっしゃいますが、私の人生の中でも15年間ここで働けたことは、とても大きな意味を持つものであり、たくさん学びと出会いが詰まった時間でした。

利用者の皆さんの「美味しかった」「また作ってね」「ごちそうさま」「ありがとう」などといった一言で今まで仕事をしてこれたのだと感じています。利用者・職員・業者の方々と一緒に働いている教えてくださった人たちに感謝しかありません。

人間(動物)にとって食事は毎日の積み重ねであり、その内容によってその人の健康に大きく作用します。その積み重ねが利用者の



方々の体を作り、生活の質を高めていくのだ  
 と思っっています。特に食事は、体を作るだけ  
 でなくその人の毎日の喜びであり、楽しみに  
 なって心と体の両方に満足を与えてくれる大  
 切なものだと考えています。高齢者の方は病  
 気を抱える方、飲み込む力が弱い方などそれ  
 ぞれの事情がありそれに合わせて食事を調整  
 し必要な栄養を届けなければなりません。

映画にもなりましたが「食べることは、生  
 きること」この言葉は、特養で働いてきて何  
 度も実感いたしました。どんな状況にあつて  
 も「また食べたい」と笑顔になってもらえる  
 食事は、その方の明日への活力になると思っ  
 ています。またその積み重ねが病気への予防  
 につながり心の安定にもつながっていくと信  
 じています。あと何年望みの門にお世話にな  
 れるかわかりませんが「食べることは生きる  
 こと」という原点に立ち一人一人の健康をさ

さえる栄養士として、何げない日常の中にあ  
 る食の力をこれからも信じて仕事を積み重ね  
 ていきたいと思っております。

### 養護老人ホーム 望みの門楽生園

## できることを一いつづつと

支援員 酒井 亮太

楽生園に応援職員として4ヵ月、異動とな  
 り3ヵ月が経過しました。当初は人手不足か  
 らの一時的な応援での勤務でしたが、勤める  
 うちに自分のスタイルに合っており、自然体  
 で業務に当たれる。職種間でも協力して課題  
 に取り組もうとする姿勢があり、何より利用  
 者様、職員方から自分が必要とされている事  
 を強く感じ、異動のお話をいただいた際に少  
 しでもお役に立てればと思ってお受けし今に至  
 ります。異動してからは担当利用者様を持ち、  
 書類の作成、業務の見直しや検討等に追われ  
 る日々です。業務の課題や書類の提出期限に  
 追われ余裕がなく苛立ってしまう場面も少な  
 くありません。今までの職場では当たり前に  
 行われていたことが行われず、提案をしても  
 変わらない。開始しても定着しない。職員間  
 での価値観や考え方、習慣の違いにより、思  
 うように話が進まない。またまらない場面も  
 多く経験しました。私の経験不足もあり焦っ

て悩んでいると、施設長、副施設長から「もっ  
 とゆっくりで大丈夫」「先行しがちなので周  
 りのペースに合わせてみて」とアドバイスを  
 いただいたり、先輩方にはこれまでの楽生園  
 や経験を教えていただき、業務をフォローい  
 ただいたりと助けていただいております。

利用者様方からも「いつもありがとね」「お  
 疲れ様。また来てね」と毎日お声をいただけ  
 励みになっております。私自身の性格もあり、  
 事を急いでしまいがちですが、ふと振り返る  
 と、多くの方に支えられていることを実感し  
 ます。「やって、やれて当たり前」ではなく、  
 お互いの頑張りや善意を敬い、感謝を伝え、  
 認め合っていくことでの助け合いがチームと  
 して大切なこ

とだと思いま  
 す。今の状況  
 を改善した  
 い。良くした  
 いという気持

ちはみんな一  
 緒です。一人  
 ひとりの想い  
 やアイデア  
 を集め、話し  
 合い、行動し  
 ていく。現在  
 も多忙な日々



が続いておりますが、仲間と協力し、利用者様、職員共に良い施設と思える場にできるよう努めていきたいと思えます。

### 特別養護老人ホーム 望みの門紫苑荘

## 介護員として



介護員 内藤 真佐忠

望みの門紫苑荘に入職させていただいてから2年が経とうとしています。

以前は介護付き有料老人ホームにて10年程働いたのち、障害者グループホームにて共同生活援助を1年間していました。

経験があるからとはいえ特別養護老人ホームでの勤務は初めての為1年目は覚える事で必死でしたが、先輩の介護員、看護員の皆様が親切に、時には厳しく指導して下さいのおかげで徐々に慣れていくことができ、今では介護員としてご利用者の皆様に愛をもって仕える働きが出来てきつあります。

先日、認知症介護実践者研修を受講させていただく機会があり、認知症の方がそれぞれ有する能力に応じて、自立した日常生活を営む事を支援する為に必要な実践的知識を学びその支援を展開する力を身に着ける事が出来ました。

まさに今ここで得た学びを紫苑荘で過して

いただいているご利用者様に、一人一人がその人らしい生活を送れるようなケアプランの構築と環境づくりを意識し介護員が一丸となって行っている最中であります。

今年は採用定着委員会活動に参加させていただいたり、かねてより目標としていたケアマネージャー試験の受験が控えていたり、個人的に去年より考える事が増えそうな一年ではあります。決して手を抜くことなく、介護員として間違ったケアをすることなくご利用者様が「紫苑荘に来てよかった」と言っていただけのような施設であるために努力していきたいと思えます。

### 特別養護老人ホーム 望みの門富士見の里

## 富士見の里に異動して…今

介護員 平野 幸子

紫苑荘から富士見の里に異動して来て12年になります。ここ数年異常気象の傾向があり既に6月の梅雨時季から猛暑の日々が続いておりニュースなどで熱中症の患者が毎日の様に病院を受診しています。

施設においても利用者様の熱中症対策に気を遣ってまた職員も自分の健康管理に注意しながら業務に努めています。毎日30度を超える異様な暑さですが利用者は「寒いから上着

を着ないと行けない」となかなか薄着にはなれません。以前は歩行されていた方や車椅子を自走していた利用者様も介護度が上がりほぼ介助にて対応しています。ユニット内は女性の利用者様が多いので食時配茶前には食事席で女子会?!が行われ談笑が絶えず賑やかに過ごされています。

まだ感染対応で食事付きの遠足などの行事は行えず利用者様のストレスにならないように誕生会のケーキやおやつ作りなど少しでも利用者様が喜んで頂けるよう職員で協力して今後も計画して行きたいと思えます。季節は7月に入り利用者様に七夕の短冊を書いて頂きました。短冊の中には自分の健康を祈る内容だったり食べたい物など様々でした。

その利用者様の願いを胸にこれからも皆様が元気で笑って過ごせるように職員のストレスもなく業務出来るように協力して心の寄り添う介護を実践して行きたいと思えます。



老人デイサービス事業 望みの門デイサービスセンター

## 思いを受け、応える施設

生活相談員兼介護員 田巻 亮

デイサービスセンターでは、この4月より日曜日の稼働を始めました。きっかけは利用者様、ご家族様からの声。：「日曜日もやってくれると助かるんだけどな。」

「金曜日を利用してから次の火曜日までお風呂に入れないのは気持ちが悪いのよ。」など、以前から日曜日もデイサービスを開いて欲しいというお声は多くありました。

それに応えようと動き始めたのですが、始めてみると平日がお休みになる職員が増える、イコール平日の勤務が大変になる。広いデイサービスのフロアを汗だくになりながら動き回る日々が増えたように思います。更には以前よりもデイサービスのご利用者様の平均介護度も高くなっており、職員の負担も増えているのが現状です。

しかしながら日曜日に勤務してみると、定員が10名と少人数のため、とてもゆったりとした時間が流れる。ご利用者様とゆっくり話ができる。普段出来ないレクリエーションやアクティビティも出来る。小規模デイサービスってこんな感じで良いなあと思ってしま

ました。

思えば望みの門デイサービスセンターが開所した2001年7月、開所日のご利用者様はたったの2名。その後は段々と増えていったものの、ご利用者様おひとりおひとりと関わる時間は多く、共に笑い、共に悩み、共に過ごした24年前。あんなこともやってたな、こんなことも出来たな、少人数だからこそ出来ていたことがたくさんありました。

そう思い返していると今の現状に対して悔しい気持ちが始まりました。40名のご利用者様だと出来ないことがたくさんある。職員が忙しくなるってご利用者様にはマイナスなことばかりじゃないか。そう思う自分がい

ました。確かにそうかもしれない。でも来所して来られるご利用者様には関係のない事。利用して下さる限り、その一日を安心安全で楽しい日にするの



が私たちの仕事。泣き言を言っている場合じゃ無えよ！と、改めてデイサービスでの仕事を見直す機会となりました。現在定員40名のデイサービス。おかげさまでほぼ満員の日々。40名のご利用者様ひとりひとりのニーズにお応え出来るよう、日々邁進していきたいと思えます。お応えできないなんてことは無いぞ！と心に思いながら…。

千葉県中核地域生活支援センター 君津ふくじネット  
君津ふくじネットの愉快な仲間たち  
team roadside tree

相談支援員 萩野 恵

私が君津ふくじネットに配属され3年が経過しました。高齢分野しか知らない私が何故…と何千回、何万回思ったことか（今だに思う時がある笑）。葛藤の中、心が打ち砕けそうになったときや心身ともに疲れ切ったときに支えてくれるのが愉快な仲間たち。それはそれは愉快だ。何が愉快って個性がとても強すぎるどころ。個性最強軍団と言っても過言ではない。こんな個性最強が揃っているのに居心地良いのはなぜだろうと思う時がある。私が一番癖強いのか：いや違う。最身強は別にいる。じゃあなんでなんだと不思議に思うが、愉快的仲間たちとはお互い支え合い、お

互いを認め合  
い苦楽を共に  
乗り越えられ  
る仲間である  
こと、共有し  
ている時間は  
笑顔で過ごし  
ていること、  
なにより団結  
力はどこにも  
負けないこと  
：言い出せば  
きりが無い。  
時に言い合  
いになる時も



ある、支援方針でぶつかる時もある、でも仲間だからできること。違う方向を向いたとしても途中で軌道修正するために手を差し伸べて、最後は全員足並み揃えればいい、それが出来るのが愉快的仲間たちだからだと私は思っている。

君津ふくしネットの業務はとても幅広い。総合相談・再犯防止事業・居住支援事業・校内居場所づくり事業・引きこもり支援などさまざま。しかも24時間・365日・年中無休。支えがないと心身のHPが下がってしまう。そんな時、愉快的仲間たちが支えてくれ、力をくれ、いつの間にかHP満タンになる。私

はそんな愉快的仲間たちが大好きだ。  
これからも愉快的仲間たちと共にいろんな壁にぶち当たったり、荒波に飲まれたり波瀾万丈かもしれないが、最身強率いる愉快的仲間たちは前に進み続けようと思います。時に立ち止まったり、後進することもあると思う。その時は一緒に進めるように手を引いていこうと思う。

最後に：最身強が誰かは私の口からは言えません笑。

**富津市富津地区地域包括支援センター  
着任から早九年**



相談支援員 飯沼 久美子

私が富津地区地域包括支援センターに着任したのは平成二十九年の一月でした。  
ケアマネージャーとしての着任でした。包括支援センターは専門職の集団です。社会福祉士、看護師、主任ケアマネと共に働きます。ケアマネジャーはプランナーと呼ばれます。次々と入って来る相談には三職種が対応しますが、介護保険の申請後要支援の判定が出る時、私が担当します。

着任早々前任者からの引継ぎで、30件の担当を任せられ、一軒一軒訪問してご挨拶を済ませると、次はサービス事業所への挨拶をしま

した。

一番大変だったのは利用者様の特徴、健康状態、身体状態、利用しているサービスの内容等、覚える事が盛沢山でした。新規の利用者様にはアセスメントをして、サービスの希望を聞いて必要なサービスに繋ぎ、変更があれば都度ケアプランを修正したりと、目まぐるしく動いていました。この九年間の事が走馬灯のように思い出されます。

ゴミ屋敷の支援、通院支援、病院との連携、成年後見人の支援、親は介護保険サービスと障害サービスの併用、娘は障害サービスなので、障害のプランナーさんとの連携、介護サービスと障害サービスとの併用の方は障害のプランナーがいらないので障害サービスの事業所を探し、障害のプランを作る事もしました。

包括に勤務して五年後主任ケアマネの資格を取得し、主任ケアマネとして勤務しました。主任ケアマネになると、相談の対応が増えましたが、仕事の内容は以前と余り変わりなく日々淡々と仕事をこなしています。暑くなり私たちも熱中症に注意しながら、日々対応しています。



利用者様の課題の抽出と介護サービスがその方のニーズに沿っているのか、未だに悩んでいます。利用者様お一人お一人に寄り添い、安心して在宅生活が継続出来るよう、きめ細かい支援を心がけています。『利用者様のその人らしい生活』を支援させて頂きます。

### 就労継続支援事業 望みの門 新生舎

## 新生舎の「こだわりの職人」さん

職業支援員 小倉 貴大

突然ですが、皆さんにこれだけは譲れない「こだわり」はありますか？ 巷では「頑固職人がこだわり抜いて作った、いま大人気の……」といったお店や商品が人気だったりしますが、実は新生舎にも沢山の「こだわりの職人」さんがいます。

新生舎には一言では括りきれない、多様な障がいをお持ちの幅広い年代の方が日々の作業に取り組まれています。その中には障がい特性から、特定の物や場所・手順等に強いこだわりを持たれる方が沢山いらっしゃいます。新生舎ではそのこだわりを否定的に捉えず、「強み」に変えていけるように支援しています。例えば：「どうしても端と端をきっちり合わせたい」といった方には、製品のシールを所定の位置に貼る作業や、リボンで

同じ長さに切る作業、畳み物の作業に入ると誰よりも綺麗に仕上げることが出来ます。「カレンダーや予定表がどうしても気になってしまう。他の人の動きばかりが気になる」といった人には、職員が忘れてしまいそうな予定などを「○○さん、小倉さんがこの予定忘れそうになっていたら前の日に声をかけてね！」と伝えておくと「小倉さん！！今日は○○がある日ですよ」と絶対に忘れずに声を掛けて下さいます。



(実は利用者さんだけでなく、職員にもそれぞれ「こだわり」があったりします。「このパンにはこの道具じゃなきゃダメよ」「味楽団搬入のパンはこの順番で作らなきゃ」「外に雑草が生えてくると、いてもたってもいられない」等々……)。

時に「生きづらさ」のように捉えられてしまう様々なこだわり。新生舎ではそのこだわりに寄り添って、活かせるものは強みに変え、苦しい部分は少し「幅のひろいこだわり」に

変えられるようにできればと考えています。今日も新生舎ではあちらこちらで「こだわりの職人」の皆さんが悩んだり、泣いたり、笑ったり、職員と共に頑張っています。

### 共同生活援助事業 グレースホーム

## 信条と心情



世話人兼生活支援員 加賀 隆太

誰しも生きる上で支えになることばや、自らを困難に立ち向かわせることばを持つているのではないのでしょうか。それが、短かったり、親兄弟など近い方からいただいたことばであったりすることもあるでしょう。

私が人生訓としているのは、諸説ありますが神君徳川家康公の遺訓とされているものであり、ここでご紹介したいと思います。

### 「東照公御遺訓」

人の一生は重荷を負ひて遠き道をゆくが如し いそぐべからず 不自由を常とおもへば不足なし ところに望みおこらば 困窮したる時を思ひ出すべし 堪忍は無事長久の基 いかりは敵とおもへ 勝事ばかり知りてまくる事をしらざれば害其の身にいたる おのれを責めて人をせむるな 及ばざるは過ぎたるよりまさされり

有名なことばですし、ことばの通り理解で

きるものですので説明は割愛致しますが、一番繰り返し自答しているのは、「おのれを責めて人をせむるな」という、他責にせず自己の至らなさを反省せよとの意味の一節です。

これは、人と関わりながら生きていく上で大切なことと感ずますが、とりわけ福祉を産業とする者にとって意味深いものではないかと思えます。少なからず不自由を抱える利用者の皆様への支援や、同じチームの仲間達との協働において心に留めておき、万事を自己の至らなさに責にすれば自らの改善と成長を図ることができます。



開設から19年。かずさの里の施設長が交代した。前任の戸波施設長が率先垂範で築いた施設文化を上書きするのか、塗りかえるのか、補修だけするのか、選択を迫られる年度のはじまりであった。戸波前施設長と30数年、あれやこれやと語り教えを乞うたもの・見てきた資質が私の能力そのものである。許容、的確な指摘、先見力など足下にも及ばないが、とにかく交代したのだ。

やってみせ、言つて聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。  
話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。  
やっている、姿を感謝で見守つて、信頼せねば、人は実らず。

現代に続く山本五十六の教え。56歳の私がやるべきことの一丁目一番地が育成なのだと思得ると、この古い教えがいつい浮かぶ。実践する力は多少なりともアップグレードしたように自称だけはしておきたい。偉ぶるつもり

児童養護施設 望みの門かずの里  
施設長交代の重み  
施設文化の探索

施設長 佐京 正範

豊かになることを仲間と共に今後も目指していきたいと思えます。

は毛頭無いが。昨年度まで所属していた事業所では、法人の協力を得ながら赤字から黒字に転化するまで7年を要した。見つめてきたビジョンのたった一つであった。名を捨てて実をとること、長期的な視点が実りを得ることがある。しかし職員目線からすると私の独りよがり映ったこともあったに違いない。私自身もぶれない孤独感を味わった。その対価として人が育っていった。一方、去った職員もいた。

かずさの里は今年度12月に20周年を迎える。建物老朽化も進んだ。職員もくたびれている。人の入れ替わりもあろう。だからこそ、何があるうが子ども優先、職員の心身疲労軽減を真ん中に据え、里の歩みを皆と共に悩み支えたい。前施設長と、歩みを支えてきた全職員に、ゆるい恩返しかも知れないが今の私



がお返しできるすべてを注ぎたい。そして次世代のための施設文化を急ぎ見つけ、実りの準備をして参りたい。

乳児院 望みの門方舟乳児園  
ほじまりは愛着から  
人を信じ、自分を信じる子どもに

施設長 井本 千鶴

児童精神科医の佐々木正美先生の著書で、愛着について書かれた私の好きな本のタイトルです。この本の中で、愛着とは子どもから見れば、親から無条件に、充分に、そして永遠に愛されるという実感を基盤にして、乳幼児期から早期幼児期に、母親との関係で生まれるものです。とあります。方舟乳児園では、生後間もない新生児から小学校入学前までの乳幼児をお預かりし、共に生活をしています。まさに、乳幼児期から早期幼児期の子どもたちです。この時期に様々な事情により、家庭から離れて暮らすことになった子どもたちと関わる方舟乳児園で、最も大切にしたいと考えているのが、愛着です。私たち職員は、子どもたちに無条件に、充分に、そして永遠に愛されるという実感を持ってもらうことが出来ているだろうか。どうしたら子どもたちに想いを伝えることが出来るだろうか。正解のない取り組みではありますが、子



どもたちの笑顔が一つの答えであると考え日々、試行錯誤しながら子どもたちと向き合っています。

今日も方舟乳児園には元気いっぱいいな子どもたちの声が溢れています。今夏も猛暑となるようですが、暑さに負けず、楽しい日々を積み重ね、子どもたちの輝く笑顔でいっぱいになりたいと思います。

児童心理治療施設 望みの門木下記念学園  
ありがとう

児童指導員 鎌田 洋一

私自身、木下記念学園に勤務して丸8年。7月1日、9年目を向かえました。この8年、子ども達と共に泣き共に笑いながら試行

錯誤を繰り返し、安心・安全の暮らし生活を目指してきました。

少し前の事になりますが、今年の3月、館山(自衛隊)にて南房総児童養護施設主催の南総サッカー大会がありました。昨年も1名の卒園生の参加。(もう1名は当日健康不良で参加できず)この3月は、5名の卒園生が参加してくれています。5名の卒園生は、20歳を向かえる者が2名、高2生が2名、中2生が1名とそれぞれ年齢、木下への入所年月日も異なりますが、5名が集まると女性の話題で花がさき、目をキラキラさせながら会話を楽しむ姿にそれぞれの成長を感じました。

振り返ると私にとって5名一人ひとりに忘れられない思い出があり、嬉しい楽しい思い出はもちろんありますが、印象的な思い出は、苦しい辛い、または闘いの思い出かなと思います。そんな彼らが、卒園生として木下の大人達とサッカーを楽しみ、汗を流している姿を見ていると「ありがとう」卒園生。よく木下に戻ってきてくれた。遊びに来てくれた。やっ木下記念学園も卒園生が訪ねて来てくれるふる里・家(施設)になったなーと実感し感無量であります。

4月新年度を向え、園長・副園長それぞれが変り、新しいスタートを切りました。

ある卒園生は高3生となり、学業・進路で悩み、ある者は木下クリニック通院の際、元



気な姿を見せてくれています。ついこの前は「仕事を辞めたい、住まいであるグループホームを出る。」という電話が夜間に入り、私達をよきもきさせています。でもこれが世間で生きる事、生活して行く現実ではないでしょうか。

現在木下記念学園で生活している子ども達、木下を卒園された全卒園生が一步一歩前進しながら世間で生き生きと生活出来るように、それぞれ頑張れ頑張れ（頑張れだけではいけません）みんな頑張れ。そして木下の大人達がその手助け、アドバイスが出るように頑張りたいと思います。

木下記念学園万歳「ありがとうございます」

児童家庭支援センター 望みの門ピーターパンの家

# はじめの一歩の大きさ

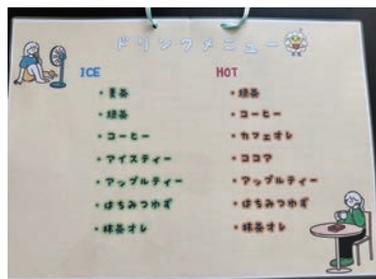
相談支援員 白井 詩織

みなさんは物事がうまく回らない時、なにを考えますか？ピーターパンの家ではどこを変えたらうまく回るのか、自分ではない他人を変えたいという相談を聞くことが多いです。しかし、他の人を変える事程難しいことはありません。まずは『自分が変わる』意識を持って生活していると不思議と周りの人も変わるのです。私もピーターパンの家で実際に相談を受けるまで他の人を変えたいと思っばかりでした。しかし相談を受けるようになって、相談者自身の対応が変わるといい方向へ進んでいく、その進むスピードも圧倒的に早いのを目の当たりにしてきました。相談者自身も同じことをしてきて、同じ考えだった自分を変えることはとても大変で、勇気がいることでしょう。相談者の育ってきた環境も大きく影響はしてくるだろうと感じます。しかし今までやってきた100の事のうち1つでも変えることができたそれはとても大きな一歩となります。相談者の方からは100のうち1つしか変えることができません、『たったそれだけ』という評価が多いですが、その1つの変化を踏み出すことにどれだけ

エネルギーを使ったことでしょうか。その努力がすごい！と尊敬ばかりです。相談者自身の頑張りが周りまで変えていくきっかけになるのだと思います。

『相談をすること』自体にも大きなハードルがあると思います。知らない人に自分の思っていることを伝えることは必ず抵抗があることでしょう。それを一歩踏み出し相談に来ていただけることが、自分自身を変えるきっかけにもなっていると思います。相談者の方にもっと自信を持ってもらえようように、100のうち1つでも変えられることができることがとても素晴らしいことだと伝えていきたいです。

ピーターパンの家では相談者の方にちょっとしたカフェサービスを提供しています。季節ごと、メニューにちょっと変化をつけながら、その変化も相談者と楽しんでいきます。このサービスは相談への一歩を踏み出した方へのごほうびであるとともにハードルを下げる良いきっかけになっていると思っています。



**2025年度 望みの門京葉後援会**  
**「チェロとピアノとあかしと総会」で報告**



6月28日  
 (土)10時から  
 西千葉教会  
 を会場に2  
 025年度  
 望みの門京  
 葉後援会  
 「チェロとピ  
 アノとあか  
 しと総会」  
 が開催され  
 ました。  
 望みの門  
 京葉後援会

は千葉県内の教会の会員を中心に全国の後援  
 会員約600名から組織されています。

多くの教会が望みの門の働きを覚えて下  
 さり、お祈りのうちに物心両面からお支え下  
 さっているのが後援会の特徴です。

この日は井上とも子さんのチェロと小蘭江  
 涼子さんのピアノ演奏で会場が満たされまし  
 た。心に響く演奏は梅雨の蒸し暑さをしばし  
 忘れさせてくれ、チェロの深く包み込むよう  
 な音色とピアノの澄んだ響きが、希望と癒し  
 をもたらしてくれました。

望みの門京葉後援会の皆さまのお働きのう  
 えに主の祝福が豊かにありますようお祈りい  
 たします。



**2025年度**  
**望みの門バザーで報告**

6月21日(土) 10時より望みの門本館を会  
 場に望みの門バザーを開催させていただきました  
 した。梅雨入りしているのがウソのような快  
 晴の下、多くの皆さまが足を運んで下さり大  
 盛況となりました。

本館玄関前でお配りした150枚の入場整  
 理券はあっという間になくなり、4階シオン  
 ホールに準備しました新品雑貨や中古衣料は  
 飛ぶように売れていきました。屋台も大繁盛  
 で、特に近隣のお肉屋さんから提供いただき

ました412個の唐揚げは開始60分ほどで完  
 売となりました。無料コーナー、子どもコー  
 ナーも多くの方で賑わいました。

ステージでは富津保育園のかわいい年長組  
 の皆さまの太鼓の音がまるで元気の波のよう  
 に伝わってきました。地元の岬ウインドアン  
 サンプルの吹奏楽は、豊かな音の重なりが、  
 まるでひとつの大きな生命のように響いてき  
 ました。ラテンジャズのジャズ・ラ・ティーナの  
 演奏は絶妙なテンポとグルーブで一音一音か  
 らラテンの太陽を感じる事ができました。  
 今回の望みの門バザーに関わり下さいまし  
 た皆さまに心より感謝申し上げます。

社会福祉法人ミッドナイトミッションのぞみ会 令和6年度 決算報告

資金収支計算書 (単位:千円)

科 目	金 額
事業活動による収支	
事業活動収入	2,047,145
事業活動支出	1,812,893
事業活動資金収支差額	234,251
施設整備等による収支	
施設整備等収入	1,515
施設整備等支出	111,848
福祉事業活動収支差額	△110,332
その他の活動による収支	
その他の活動収入	8,419
その他の活動支出	88,610
その他の活動資金収支差額	△ 80,191
当期資金収支差額	43,727
前期末支払資金残高	790,583
当期末支払資金残高	834,311



事業活動計算書 (単位:千円)

科 目	金 額
サービス活動増減	
サービス活動収益	2,008,041
サービス活動費用	1,889,585
サービス活動増減差額	118,456
サービス活動外増減	
サービス活動外収益	39,103
サービス活動外費用	25,728
サービス活動外増減差額	13,375
経常増減差額	131,831
特別増減	
特別収益	3,753
特別費用	7,692
特別増減差額	△ 3,938
当期活動増減差額	127,892
繰越活動増減差額	
前期繰越活動増減差額	861,329
当期末繰越活動増減差額	989,222
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	7,300
その他の積立金積立額	82,646
次期繰越活動増減差額	913,876

貸借対照表 (単位:千円)

科 目	金 額
資 産 の 部	
流動資産	865,354
固定資産	3,619,544
(基本財産)	2,417,862
(その他の固定資産)	1,201,681
資産の部合計	4,484,899
負 債 の 部	
流動負債	162,116
固定負債	1,111,931
負債の部合計	1,274,047
純 資 産 の 部	
基本金	716,871
国庫補助金等特別積立金	668,880
その他の積立金	911,223
次期繰越活動増減差額	913,876
(うち当期活動増減差額)	127,892
純資産の部合計	3,210,851
負債及び純資産の部合計	4,484,899

※ 詳しくは独立行政法人福祉医療機構が運営する情報サイト「社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム」にて公表しています。

編集後記

近年、日本では「令和の米騒動」とも呼ばれるコメ不足が深刻化している。異常気象による不作、農家の高齢化、そしてインバウンド需要の増加など、複数の要因が重なった結果だ。スーパーの棚から米が消え、価格も高騰した。こうした状況は、稲作が単なる食料生産ではなく、私たちの暮らしと密接に結びついた営みであることを改めて気づかせてくれる。この状況から稲作系ライバーの動画が人気を集めていると言う。

日本の稲作は、四季の恵みに支えられた豊かな農業文化の象徴である。この春、初めてのぞみ米の田植えに参加させて頂いた。田に水が引かれ苗が植えられると田んぼ一帯には命の息吹が満ちる。日本の原風景を見ているようであった。夏には太陽の光を浴びて緑が広がり、秋には黄金色の稲穂が美しく風に揺れることだろう。稲作は単なる食料生産にとどまらず、祭りや風習など地域の伝統とも深く結びついてきた。

また、田んぼは水を蓄え生き物を育むなど、自然との共生の場でもある。効率化や都市化が進む現代だからこそ、自然のリズムに寄り添った稲作の価値を見つめ直すことが大切である。私たちはこの文化を未来へつなぐ責任を持っているのだらう。

(T2)



6月24日のぞみ米